

## ドローンによる医薬品配送の実証実験を実施します

～へき地医療への負担軽減を図り、地域医療の活性化に貢献します～



株式会社 エー・ディー・イー



OKUBO HOSPITAL



株式会社オーイーシー



公益財団法人  
ハイパーネットワーク社会研究所



AGL  
AERO GLAB



日本一のおんせん県



竹田市

株式会社オートバックスセブン(代表取締役 社長執行役員:小林喜夫巳)は 2019年3月19日(火)に 大分県と地域活性化に関する包括連携協定を締結し、地域活性化に関する8つの取り組みを行っています。このたび、株式会社オートバックスセブンの100%子会社である株式会社エー・ディー・イー(代表取締役:八塚昌明)は、地域活性化に関する取り組みの一つである介護福祉分野における移動支援・生活支援として、訪問医療時の突発的な医薬品不足の解消による地域医療の負担軽減を目的に、大分県竹田市宮砥地区でドローンによる医薬品配送の実証実験を2021年2月4日(木)に実施します。

### ここがポイント！

- 大分県内では初となる、ドローンによる医薬品配送の実用化に向けた実証実験を行います。
- 必要な医薬品の即時配送が可能となれば、慢性症例以外の症状の方への対処時間を短縮することができます。
- 2022年度の実用化を目指して段階的に実証実験を実施します。

大分県竹田市の宮砥地区は、現在地域医療の拠点となる診療所がなく、40km離れた社会医療法人社団大久保病院が週に1度訪問診療を行っています。訪問診療においては事前に処方した医薬品を準備していますが、現地での診療の内容によって、想定していなかった医薬品が必要になる場合もあります。その際、即日の処方ができず、後日配送になるといった時間的なロスが発生し、医薬品の迅速な処方が行えない状況が一部発生しています。

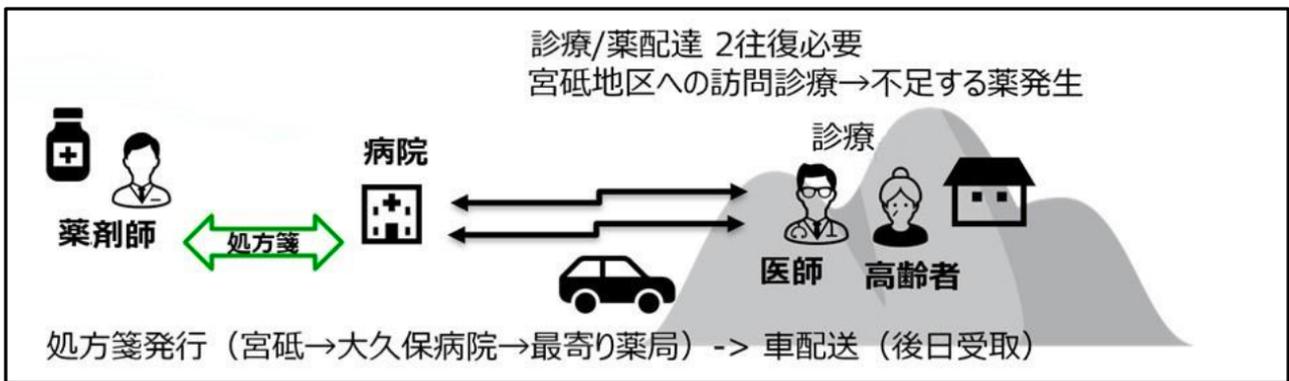
このたび、ドローンによる医薬品の配送の実用化に向けた実証実験を行い、実用化されれば、離れた地域においても医薬品の即時配送が可能となり、慢性症例以外の症状の方への対処時間を短縮することができます。地域医療の向上とともに、過疎山間地で拡大するへき地医療への負担軽減を図ることができます。本実証実験は7つの自治体・企業・団体の協力のもと実施します。実施体制は次ページの通りです。

■実施体制

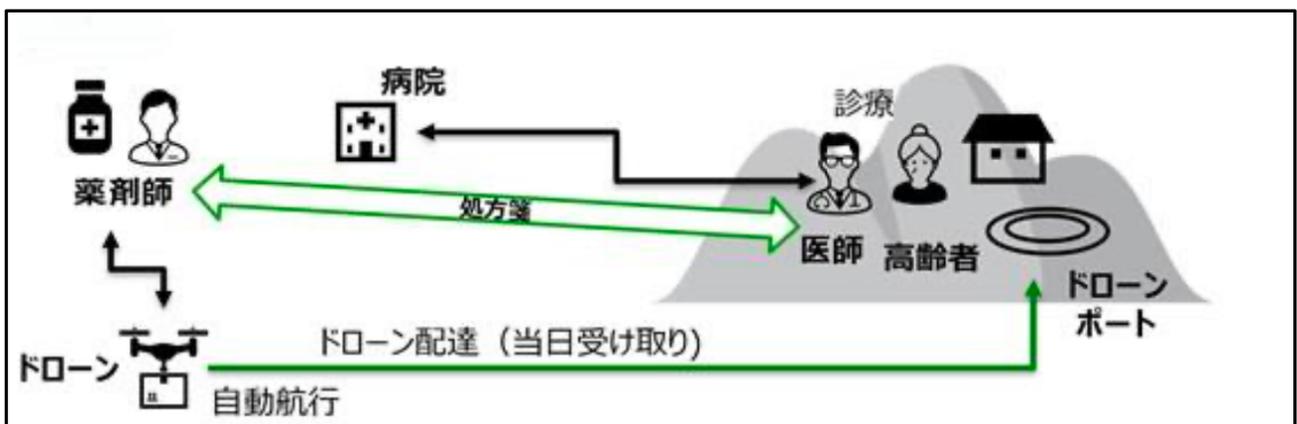
実施機関	：	役割分担
株式会社エー・ディー・イー	：	事業主体・運行管理・機体調達
社会福祉法人社団大久保病院	：	実証フィールド提供、医師会・薬剤師会との調整
株式会社オーイーシー	：	システム開発
株式会社エアロジーラボ	：	ハイブリッド型ドローンの開発及び製作
ハイパーワーク社会研究所	：	事業サポート
大分県・竹田市	：	関係者調整・地元調整

■ドローンによる医薬品配送の実用化イメージ

【導入前：準備していた処方薬で対応できない場合は後日配送】



【導入後：想定していなかった症例でも必要な医薬品をすぐに提供】



本実証実験の第2フェーズでは、山間地域や島しょ部などにおけるサービス提供を視野に入れ、株式会社エアロジーラボが開発する、長距離運用に対応した「日本初の120分以上・100km以上飛行可能な、実運用が可能となる商用ハイブリッド型ドローン」を使用し、効果実証を進める予定です。将来的には、災害発生時のような緊急の際に、避難所への医薬品配送などにも活用することで地域における防災力向上に貢献します。

●本件に関するお問い合わせ先●

株式会社オーイーシー

DX・海外連携推進室 野崎

電話：097-537-9564

Mail：nozaki@oec.co.jp